

令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 思永 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、2年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

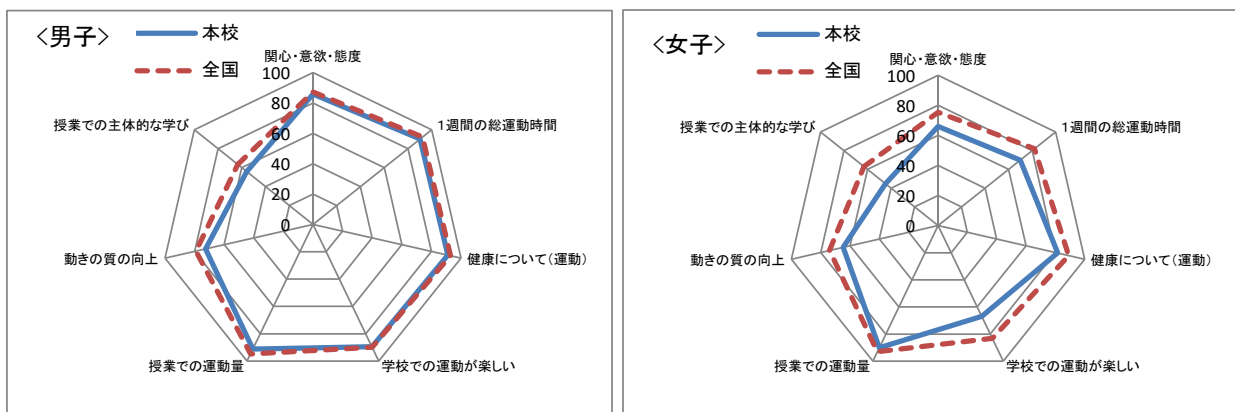
2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

男子は、概ね全国平均に近い結果である。「運動やスポーツをすることが好き」「運動やスポーツが大切なものである」の質問に肯定的な回答をしている生徒が全国平均を上回っている。一方、女子は、全体的に全国平均を下回っている。特に「運動やスポーツをすることが好き」「運動やスポーツが大切なものである」の質問に肯定的な回答をしている生徒の割合が全国平均を下回っており、その理由として「体を動かすことが苦手」「怪我をすることが怖い」「汗をかくことが嫌」が挙げられる。

「授業での主体的な学び」については、男女とも全国平均を下回っており、「保健体育の授業で、自分の動きの質が向上していることがありますか」の質問に肯定的な回答をしている生徒も全国平均を下回っていることから、授業で取り組む種目の特性を踏まえて、自らの課題を設定し、自分の動きの変容を実感する場を設定する等の取組が必要である。

4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で)

「運動が苦手」「運動が楽しくない」と感じている生徒に対して、運動の楽しさや「できた」という達成感を味わうことができるように授業改善に取り組む。具体的には、単元の導入における雰囲気づくり(種目の特性を踏まえた準備運動や目標の設定)、授業における学び合う活動の充実(自らの動きの変容を実感する。また、種目によっては、男女共修で行うことで、新たな視点でのアドバイスや互いの良さや伸びを認め合う「話し合い活動」「ふり返り」の場の設定)に取り組む。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

・授業において、種目の特性の動きを踏まえた準備運動を行うことによってその種目に対する意識を向上させる。
 ・昼休みにおいては、運動する場を設定する。(ボールの消毒や手指消毒などの感染症対策を行いながら、昼休みのボールの貸し出しを行う。